

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	市民との協働による演劇制作事業
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市交流文化芸術センター) 長野県上田市天神 3-3-15
事業区分	③教育・文化の振興に関する事業 ①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,099,830円 (うち支援金: 3,147,000円)

### 事業内容

地域の方々が、実際に作品制作をしている現場に立ち会い協働することで、芸術を身近に感じる醍醐味やノウハウを吸収し、プロの劇団と劇場スタッフと共に作品制作を行うことによって、一方通行の関係では感じることができない双方向の交流から様々なアイデアが生まれるなど、作品制作事業の運営面を知ることで、地域の特色ある文化創造と独創性にあふれた芸術文化の育成と振興を主眼に置いての実施。

- ・制作・運営面への協働 10月26日～11月4日
- ・道具製作への協働 10月12日～23日
- ・劇団と市民との交流 10月31日/11月1日  
11月3日・4日

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①地域と市民との協働事業により、普段、関わる数が少ない舞台制作のサポート(協働)をすることで、参加者した方々が文化芸術の担い手として活動するためのヒントを獲得することによって、地域文化の振興に寄与することができました。
- ②継続的に文化芸術に触れることができる環境を整えることにより、地域におけるコミュニティの活性化、地域に対する愛着や誇りの回復など、文化芸術が地域再生に結びつく効果を提案できた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本事業を、演劇事業に於ける市民との協働事業のモデルケースとして、次年度以降においても市民の方々が参画する事業を継続して実施していきたい。

また、商店街や様々な劇団と連携・協力することで、芸術文化に関わる人々への啓発や育成事業を積極的に行い「文化の薫るまちづくり」を推進していきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【公演終了後の集合写真】

### 【目標・ねらい】

- ①文化芸術活動の活性化
- ②演劇事業に於けるモデルケースの構築

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ①参加者からは、市民協働による事業の継続を望む声が多くみられたこと。
- ②市民の参加数は目標を達成したが、舞台美術WS等の企画の一部を変更することになったこと。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アケボノゾウ化石クリーニングルーム整備工事
事業主体 (連絡先)	東御市 東御市県 281-2
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,766,800円 (うち支援金: 1,416,000円)

#### 事業内容

東御市羽毛山区東側及び加沢区南側の千曲川河川敷からアケボノゾウ化石の全身骨格が4個体出土し、その一部は県天然記念物に指定されている。しかし、展示場所と作業場所が離れている現状から、継続的なクリーニング作業ができず、発掘化石は十分なクリーニングや調査研究がなされていない。このため、本事業は、北御牧支所内に作業の拠点となるクリーニングルームを整備するとともに、クリーニング作業の人材を確保するための市民対象のワークショップを開催した。

- ・ワークショップ開催: 11月10日、12月14日  
21人参加



【ワークショップの様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①クリーニングルームの整備により、アケボノゾウ化石の展示・保存活動の拠点を一箇所に集約することができた。これにより効率的な作業が可能となり、クリーニング作業の人材育成に繋がる環境が整備された。
- ②ワークショップを開催し、アケボノゾウに関する知識及びクリーニング作業の実施方法について、普及啓蒙に努めた。

- ・「アケボノゾウの会」会員数: 目標 35人→実績 32人  
目標は達成できなかったが、今後の会員増加が見込まれる事業となった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた勉強会の開催を中止せざるを得ない状況となった。そのため、今後はクリーニング作業の体験会や勉強会等を展開し、整備したクリーニングルームを、市民参加型の学習の場として活用したい。また、クリーニング作業従事者の確保を引き続き進めていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【クリーニングルーム】

#### 【目標・ねらい】

- ①クリーニングルームの整備
- ②ワークショップ開催による化石クリーニング方法の普及啓蒙

※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

- ・作業拠点となるクリーニングルームを整備し、展示場所と作業場所を集約し、作業効率を確保。
- ・ワークショップを通じて、化石クリーニングを市民に広く周知することができた。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	青木村国際交流事業 義民太鼓こまゆみ会アイルランド文化交流事業
事業主体 (連絡先)	青木村 青木村役場 総務企画課 企画財政係 TEL0268-49-0111
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	605,988円 (うち支援金: 415,000円)

#### 事業内容

- ①青木村義民太鼓保存会こまゆみ会の小学6年生から高校生を主体にアイルランドへ文化交流に派遣(自主事業)
- ②現地での交流を図るため、ピンバッジ、コットンバッグ、シールとメンバーとプレゼント用のポロシャツ、タオルを制作
- ③アイルランド滞在の7日間。6会場で公演と4か所で太鼓の体験を行う。
- ④夏祭りでの壮行会、産業祭&新そばまつりでの報告会と地域住民にも交流事業が周知され、村の代表として一つとなった国際交流事業となった。



【 世界遺産ニューグレンジ遺跡での義民太鼓体験 】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①青木村、村無形文化財義民太鼓の知名、認知度向上を図るアイルランド滞在の7日間。6会場で公演と4か所で太鼓の体験を行った。いずれも多くの観衆、太鼓体験の参加者との歓声、交流から自信を感じた。
- ②ミュージカルのような本曲「義民」はアイルランドでも共感を得て「義民に会いたい」「青木村に行きたい」と感想をいただき「義民太鼓」を介して国際交流が深まり派遣メンバーも感動した。
- ③8月14から22日の9日間、親もとを離れた集団行動と日本とは違う演奏会場への搬入は遠い道のりで大変苦労した。この体験からみんなが協力する姿がみられるようになった。

#### 【目標・ねらい】

- ①青少年の育成。国際社会への関心
- ②青木村、義民太鼓の知名度向上
- ③インバウンド太鼓体験の増
- ④保存会の持続的な活動

#### ※自己評価 【 A 】

【理由】  
音楽に国境はないことを実感。本事業によりピンバッジやシール等を制作し会話や交流のきっかけとなった。本事業を介して青少年が地域や文化に自信と誇りをもった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①子どもたちの成長は、太鼓の練習はもとより、学校生活、地域での活動にも主体的に積極的に参加するようになった。
- ②アイルランド現地ガイド山下直子さんが上田市出身。ラグビーワールドカップや東京五輪と、アイルランドナショナルチームが話題になるなかアイルランドや海外国際交流の機運を高めた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	～青木の先人、五島慶太翁 没後 60 年～「誇らしきわが郷土」再発見事業
事業主体 (連絡先)	青木村 〒386-1601 小県郡青木村大字田沢 111 0268-49-0111
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,710,898 円 (うち支援金: 2,166,000 円)

#### 事業内容

1 五島慶太翁の関係人口の創出、継続的な来村の仕組みづくり

- (1) ミニ展示「青木村に電車が走っていた頃」開催  
7月24日～9月30日 会場:道の駅あおき内  
ぷらっと家(ほーむ)あおき
- (2) 講演会「上田温泉電軌の歴史」開催  
8月4日 会場:道の駅あおき内体験学習館
- (3) 講演会「五島慶太の生家について」開催  
12月8日 会場:青木村文化会館

2 五島慶太翁の功績を後世に伝える仕組みづくり

- (1) 令和2年4月開館予定の五島慶太未来創造館を活用した仕組みづくり
  - ・ゆかりの品・関係資料の収集・研究
  - ・五島慶太翁直筆の書の修復・保存
  - ・解説文書・展示資料等の整理・作成  
(指導などは有識者に依頼)
  - ・未来創造館案内パンフレット等の作製
  - ・開館記念ノベルティの製作
- (2) 五島慶太ゆかりの地マップの作製



【講演会の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 関係団体との連携強化・関係人口の創出
- ② 青木村の魅力発信
- ③ 地域の魅力掘り起こし

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 関係団体とイベントや展示等に関する打合せ等を密に行うことにより、顕彰事業を行う上でのネットワークを形成することができた。
- ② 講演会等には村内外から約210人が参加、ミニ展示には約1,500人が来場し、慶太翁の顕彰と共に村のPRができた。
- ③ 講演会等イベントの開催等、村民が五島慶太について知る機会を設けることで顕彰事業に対する機運が高まった。

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

関係団体と協力しながら、資料収集やイベント開催などを行い、顕彰事業を効果的に行うことができた。また、顕彰事業と併せて青木村のPRができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

令和2年4月開館予定の五島慶太未来創造館を中心として、今後も継続的に顕彰事業を行っていくための仕組みづくりを行うと共に、企画展・講演会等のイベントを開催することで、青木村へ来村していただくリピーター・関係人口の更なる創出を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地元職業高等学校と地域企業担当者の情報交換会開催事業
事業主体 (連絡先)	東信州次世代産業振興協議会 (0268-25-5396)
事業区分	(6) オその他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,994,300円 (うち支援金: 1,595,000円)

### 事業内容

会場となる高校の体育館内に参加企業のブースを設置し、企業と高校生の情報交換(1回15分×6回)を行った。高校生には事前に参加企業の情報(企業の強み、働き方改革への取組み、先輩社員のメッセージ等)を掲載したパンフレットを配布し、企業研究の参考としてもらった。

上田会場(上田千曲高等学校体育館)

日時: 令和元年11月21日(木) 13:00~14:50

参加者: 企業50社、高校生111名

佐久・小諸会場(小諸商業高等学校体育館)

日時: 令和元年12月5日(木) 13:50~15:40

参加者: 企業40社、高校生156名



【小諸・佐久会場】

### 【目標・ねらい】

- ① 高校生に地域企業を知る機会の提供
- ② 地域企業の高校生採用人数増加
- ③ 高校生の就職ミスマッチ抑制

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 企業の基本情報だけでなく、企業の魅力について分かりやすく記載したパンフレットを配布したことで、情報交換を行った企業以外にも多くの地域企業を知る機会となった。② 進学や他地域での就職を考えている学生にも地域企業の魅力を知る機会となり、地元での就職に対する意識付けができた。具体的な採用人数は、参加高校生が就職する令和3年度に改めて調査検証する。③ 参加高校生には地域企業の業務内容や社風について知る機会となった。このイベントを契機に就職についての意識を高め、今後も自己分析と企業研究に取り組んでもらい自分にあった就職先選定の良い参考にしてもらう。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回のイベントに関して、参加した企業・高校生・進路指導教諭から高い評価と、次年度以降の継続開催要望のコメントをいただいた。今回、課題になった開催高校以外の高校生の交通手段や情報交換の時間などの改善を行い、開催場所に関しても各方面の意見を集約し、次年度の継続開催に向けて準備を進めていく。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

当初の予定通りの参加者と事業効果を得ることができたと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第2回信州上田たろうフェスティバル
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 上田青年会議所 0268-22-5074
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,367,348円 (うち支援金: 2,540,000円)

#### 事業内容

日時: 9月15日(日)  
 開催時間: 午前10時~午後5時  
 場所: 上田城跡公園 尼が淵広場

新米ごはん 2500食を無料配布し、ごはんに合うおかずなどのブース出店を募り、地域産業の魅力発信を行った。MY茶わん持参者にはオリジナルトートバックをプレゼントし、プラゴミ削減の意識醸成を図った。地元ゆかりのアーティストによるライブステージを実施し、世代を問わず楽しめる設えとした。出店者、学生ボランティアなど地域住民との協働を意識して実施した。



【ごはんを受け取る参加者】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 約 5000 人の参加者に向けて地域の農業や食文化などの魅力、アーティストやブース出店による人の魅力などを発信することができた。
- ② 出店者、学生ボランティア、協賛企業、行政など地域の様々な皆さんの協力を得て開催することができ、継続した魅力発信に向けてのステップとなった。
- ③ 新米ごはんの配布により、地域の農業や食の産業に対する関心を高めることができた。

#### 【目標・ねらい】

- ① 地域の魅力発信
- ② 地域協働による継続した魅力発信事業の構築
- ③ 地域産業への理解促進

※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

当初計画の参加動員 8000 人を達成することができなかったが、ごはんというコンセプトや協賛企業など、来年度以降の継続性につなげることができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 事業の魅力をもっと向上させるために、参加者の幅の拡大を検討したい。アンケートの結果では県外からの参加者は少数にとどまっている。広報の範囲、手法について深度ある検討を行い、より一層の集客を図りたい。また、地域の皆様が魅力を発信する場であるブースについても、より幅広く出店をいただくために、公募手法の検討に加え、出店しやすい環境整備を図るための設備投資面での資金使途を検討したい。
- ② 事業の継続のためには、主催団体のあり方を見据え、事業の収益モデルを確立することと並行して、地域を巻き込む活動が必要となる。今回は一部協賛金を募って開催したが、資金確保目的のみならず、事業の継続、発展のための地域を巻き込んだ活動とするべく、協賛金の

(別記様式第12号) (第3の8関係)

金額規模や範囲の拡大を図り、実行委員会としての体制構築に向けたステップとしたい。

③今回の事業のコンセプトとした新米ごはん配布には多くの来客があった。このようなコンセプトをブラッシュアップし、さらなる強力なコンセプトとして事業の軸を作り上げたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	MTB 忍者ライドによる地域 PR 推進事業
事業主体 (連絡先)	鹿教湯温泉旅館協同組合 TEL:0268-44-2331
事業区分	⑥ア.特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	417,800 円 (うち支援金 : 334,000 円)

#### 事業内容

令和元年度は、MTB (マウンテンバイク) ツアーの「忍者ライド」を実施する予定であったが、台 19 号によりコース及びアクセス道路が崖崩れ当で被害を受け、ツアーが実施できなくなってしまったため、情報発信用の Web サイト制作のみを行い来年度ツアー募集の基礎とした。

##### <Web サイト制作>

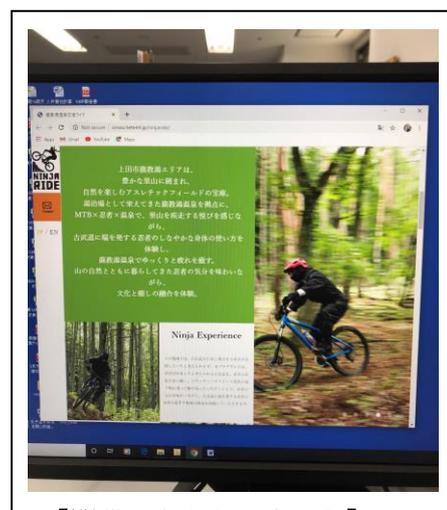
- ・英語にも対応させた。
- ・昨年度に用意した忍者衣装を着て実際のコースにて撮影を行った。
- ・R2.5 月には動画の作成を予定しており、さらにわかりやすいイメージの発信を目指す。
- ・R 2 年度は今年度作成した WEB ページを基に、チラシやポスター、OTA 上でのツアー造成、リリース配信などで集客を図る。

#### 事業効果

- ・事業が縮小されたため、WEB 上での情報発信のみとなったが、長元坊バイシクルツアーズや NINJA プロジェクト (代表タイラーランチ) と協働体制が取れたり、情報発信のイメージとなるロゴ素材の作成などができた。また、今後の情報発信の素材も準備することができた。
- ・WEB サイトによる情報発信では月間 2000PV を目標としていたが、3月の納品となり目標の達成には至らなかった。来年度より引き続き忍者ライドの認知度アップを図る。

#### 今後の取り組み

台風 19 号でふさがれたアクセス道路が通行可能になることが前提であるが、4 月以降に MTB 忍者ライドコースの安全確認及びコースの再整備を行い、今年度 10 月~11 月にかけて計画していた MTB 忍者ライドツアー募集を 6 月中旬~10 月に実施する。その後は長元坊バイシクルツアーズと共同で定期的にツアーを募集し鹿教湯温泉の着地型体験プログラムとして定着を図る。



【開設した Web サイト】

##### 【目標・ねらい】

- ①忍者ライドの認知
- ②鹿教湯温泉のイメージアップ
- ③ライドツアー申込への誘導
- ④基礎情報の提供

※自己評価 【 C 】

**【理由】**  
 台風の影響で事業そのものを縮小せざるを得なかった。  
 崖崩れ等で一部コースへのアクセスが不可になったため情報発信も中途半場なものとなった。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域のママたちの「やりたい」を応援！ スキルアップ講座事業
事業主体 (連絡先)	信州おやこさんぽ 代表：野々村奈緒美 (連絡先 090-2528-0447)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	875,206 円 (うち支援金：648,000 円)

#### 事業内容

「上田市街地の家族向けお出かけマップ・web 特設制作・配布・ワークショップの開催」

- ・ファミリー層の上田市街地観光の活性化を目的としたファミリー向けマップ制作
- ・web 特設ページ制作  
(<https://shinshu-oyako.com/uedaodekakemap/>)
- ・ファミリー向け上田市街地お出かけマップ制作を通じたママ・女性のスキルアップ講座を開講(ライティング講座、WEB制作講座、Illustrator講座)



【子育て世代向け上田市街地マップ (表)】

#### 【目標・ねらい】

- ①ファミリー層の上田市街地観光の活性化
- ②ファミリー向け上田市街地お出かけマップ制作を通じた、ママ・女性のスキルアップ

#### 事業効果

##### ① ファミリー層の上田市街地観光の活性化

支援金を活用して、子育て世代向け上田市街地マップを7,000部発行。

上田市役所のご協力を得て、上田市内全幼稚園、保育園、支援センターに配布。制作にご協力をしてくださった店舗を中心に約130箇所に設置。実際にマップを見て掲載店舗に足を運んだという声も寄せられる。(新型コロナウイルスに伴い具体的なリサーチを中止)

##### ② ファミリー向け上田市街地お出かけマップ制作を通じた、ママ・女性のスキルアップ

アンケート(別紙参照)にて多くの参加者が講座により新しい学びを得たという回答をいただいた。

講座後、「学んだスキルを活かしてライターをして収入を得た」「HPを開設した」「引き続きIllustratorの勉強をしてさらなるスキルアップを目指している」という声が届いている。

#### 今後の取り組み

本事業の取り組みを掲載して下さった信濃毎日新聞の記事を通して上田市長より懇談のお誘いをいただいた。

今後もママ視点を活かし、上田市をはじめとする長野県内の地域に寄り添った子育て世代のお出かけをより楽しむコンテンツを生み出していきたい。

現在、新型コロナウイルスで外出がしづらい状況なので、ママコミュニティを活かした「家族で楽しむ」お家コンテンツも考えていけたらと考えている。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

- ・需要により、子育て世代向け上田市街地マップの発行数が予定をしていた5,000部を上回り7,000部となった。
- ・ママたちのスキルアップ講座により、同じ分野を学ぶ新しい繋がりが生まれて嬉しいという声もいただいた。昨今のママは閉ざされた環境で過ごすことが多く「孤育て」と言われることもあるが、孤から解放されるきっかけの一つを作れた。

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長和町たかやま地区 訪日外国人観光振興事業		
事業主体 (連絡先)	たかやま活性化委員会 小県郡長和町大門 3652		
事業区分	地域協働の推進に関する事業		
事業タイプ	ソフト・ハード		
総事業費	2,092,090	円 (うち支援金 :	1,630,000 円)

### 事業内容

訪日外国人が今行っている地域以外でも、こんなに魅力的な自然があり、まだ知らない歴史や文化があること。このたかやま地区・長和町・上田地域にはあることを伝える事業です。今年度はスキー場を中心にインバウンド環境の整備を進めました。

1 多言語の野外案内看板、各施設内の案内看板、シールの作成・設置

野外案内看板、施設内の表示パネル看板、設備利用時の注意看板、トイレ利用方法案内シールの作成・設置。

2 多言語対応機器 (同時通訳機) の導入、講習会の実施

74 言語対応の同時通訳機を6台導入、施設内に設置、スタッフへ利用方法について講習会を実施。宿泊施設や体験施設で必要とする際は貸出をして対応。

3 インバウンド向けパンフレット・リーフレットの作成

スキー場、周辺宿泊施設、体験施設等に設置するほか、外国人団体旅行客を取り扱うエージェントや宿泊施設への営業に活用。

4 観光客の SNS 発信ツールとして屋外用記念撮影看板を制作

たかやま地区の中でも来場者の多いスキー場に記念撮影用看板を設置することで、観光客が撮影した写真を SNS に掲載し、たかやま地区の魅力が広く発信されるよう作成・設置。

### 事業効果

2019年3月からインバウンド事業を開始し、2020年1月10日現在で中国、台湾からスキー場及び周辺体験施設へ363名の予約が入った。

1 施設内の案内看板設置によりご来場いただいた外国人の方があまり迷う事なく行動できている。(特にトイレや売店のレジの場所など)

2 お客様の対応が少しでもスムーズにいくために同時通訳機を購入し、実際にリフト乗降客の転倒時等に使用した。

3 多言語対応パンフレット・リーフレットはシーズン前の営業時に、インバウンド受け入れの宿泊施設を中心に周辺地域の観光案内に使えると好評だった。



【野外用記念撮影看板  
での撮影の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① たかやま地区全体のインバウンド受け入れ環境整備
- ② 訪日外国人観光客の増加に向けた魅力発信

### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

多言語対応の案内看板・シールの作成・設置、多言語対応機器 (同時通訳機) の導入によりインバウンド受け入れの環境を整備することができた。

野外用記念撮影看板での記念撮影する外国人も見られ、SNS 等を通じた発信にも期待ができる。また、インバウンド向けパンフレットやリーフレットは宿泊施設等への営業で好評だったので来年度以降の誘客に向けても引き続き活用していきたい。

## (別記様式第12号) (第3の8関係)

4 ブランシュたかやまスキー場のキャラクター「しろつくまん」を使い製作した野外用記念撮影看板では外国人のお客様も楽しそうに記念写真を撮影しています。(写真参照)

今シーズン来場した団体・個人旅行の方々に今回の支援金での環境整備の状況や多言語パンフレット・リーフレットなどをみていただき、たかやま地区・ブランシュたかやまスキー場は訪日外国人を積極的に受け入れている地域であると印象付けることができました。

また、外国語表記の看板や案内看板、多言語対応機器(同時通訳機)等を整備することで外国人にも安心して利用できる環境の整備を進めることができました。記念撮影看板で写真撮影する様子も多く見られ今後 SNS での発信も期待されます。

### 今後の取り組み

- ・製作したパンフレットを訪日外国人誘致に向けグリーンシーズン・次スキーシーズンの営業ツールとしてフルに活用していく。
- ・たかやま牧場も今後場内の環境整備をし、訪日外国人のお客様が不便なく快適に過ごせるよう整備を検討していきたい。(看板の多言語・場内の案内表示パネル看板や案内パンフレット)
- ・スキー場では今シーズン中に写真や動画などの素材を集め、たかやま地区のパンフレットだけではなく動画でも PR できるよう準備していきたい。
- ・今シーズンの団体の入込時期・内容を考えると第2駐車場エリアの早期環境整備が必要。
- ・たかやま地区だけではなく、次は長和町町内へと広げる準備をして展開していきたい。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	誰にでも優しい青木村観光魅力アップ事業
事業主体 (連絡先)	信州・青木村観光事業推進協議会 (事務局：青木村商工観光移住課)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	538,739 円 (うち支援金：365,000 円)

#### 事業内容

- ユニバーサルな意識を高める研修会等の開催
  - ・ユニバーサルツーリズム研修会の開催 (6月・11月)
  - 講師：富士見高原リゾート(株) 藤田然  
八ヶ岳観光福祉デザイン室 横山綾子
- 外国語表記の掲示推進 (モデル事業)
  - ・東京農業大学学生等のワークショップ形式で道の駅あおき直売所の外国語表記実施
  - ・青木村郷土美術館内国宝大法寺三重塔多言語パネル作成
- 外国語表記パンフレット及び案内板作成
  - ・外国語表記パンフレット作成
  - ・道の駅あおきに外国語表記案内板設置



【ユニバーサルツーリズム現地研修会】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①青木村内を訪れる台湾修学旅行生を中心とした外国人旅行客に対応し、道の駅あおきや青木村郷土美術館など主要観光地での受け入れ体制を整えることができた。
- ②村内観光関係者を対象にユニバーサルな観光地域づくりに向けた意識を向上させることができ、また研修会の参加者アンケートでは満足度が極めて高かった。
- ③外国語表記やユニバーサルな観光地域づくりを推進することで、青木村ファンづくりにつながる取組を進めることができた。

#### 【目標・ねらい】

- ①誰にでも優しい青木村観光受入意識とおもてなしの向上
- ②ユニバーサルな観光地づくり
- ③観光地の多言語化の促進

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「道の駅あおき」や青木村郷土美術館など主要観光地で外国語表記を進め、また青木村内の観光事業者にユニバーサルツーリズムの意識を醸成させた。今後も青木村において誰にでも優しい観光地域づくりを進め、ユニバーサルな意識が高く地域が誇れる青木村、またファンやリピーターの多い青木村を目指し、については交流人口の拡大につなげたい。

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

- ・村内観光関係者を対象にユニバーサルツーリズムの意識の向上が図れた。
- ・外国人対応の環境整備が前進した。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある